

An aerial photograph of Iwate City, Japan, showing a wide river in the foreground, a dense urban area in the middle ground, and a range of mountains in the background. The text '第4章 岩出市観光の方向性' is overlaid in the center.

# 第4章 岩出市観光の方向性

# 岩出市観光の方向性

## つながる岩出市観光



紀の川さん、これまでの話で観光の大切さはわかってきたけど、結局、岩出市は観光でどこを目指すんだらうね？



そうですね。外貨を稼ぐってのは分かったけど、「観光の方向性」ってもうちょっと具体的にイメージできるようにしたいですね。



ええ、その点は重要ですね。岩出市の観光、方向性を一言でいえば、「交流人口を生み出す、外貨獲得型の観光」が目指すところです。



ほう～、話がカッチリしてきて、ちょっと戦略っぽい感じになってきましたね。

でも、それっていわゆる「観光地っぽくする」ってことですか？テーマパークとか温泉街みたいな派手な展開？



いいえ、それとは違います。岩出市の場合は道の駅や根来寺を活かして、地域にとって「また来たくなる場所」や「居心地のいい空間」を作ることが核になります。

なるほど！ それなら、道の駅の利活用もポイントですね。特色を打ち出して、人々が「立ち寄りたい」と思える仕掛けが取り入れられると良いと思います。



## 岩出市観光の方向性



そしてさらに、道の駅が駅前や商店街なんかとうまく「つながっていく」ことで、滞在時間が長くなる仕掛けを考えるべきだね！

その通りです。そういった連携で「滞留拠点化」を実現していく。つまり、人が立ち寄るだけでなく「過ごせる場所」に変えていくことが大事なんです。



本当にそうですね！でもそうするには、少なくとも既存の資源をうまく使うこと、それに計画をガチガチに固めすぎず柔軟さを持つことも、このプロセスでは重要ですね。

...って、ここで一つだけ確認させてください。  
滞留拠点って、結局どんな場所のことですか？

いい質問だね。ここは定義しておこう。

滞留拠点っていうのは、来訪者が“立ち止まり”、休憩したり、情報を得たり、飲食したり、体験の予約を入れたりして、次の目的地への回遊につながっていく結節点のことだよ。“寄るだけ”じゃなくて、“過ごして次につながる”場所、って考えると分かりやすい。



なるほど。通り過ぎるんやなくて、いったん腰を落ち着けて、次に進める場所やな。

そう。で、もう一步分かりやすくするなら、滞留拠点は“雰囲気”じゃなくて、満たすべき条件（基準）で整理するのがいい。



## 岩出市観光の方向性



基準ですか。どういう条件が揃えば“滞留拠点”って言えるんでしょう？

「例えば最低限、こういう観点だね。

- ① アクセシビリティ(駐車・公共交通で来やすいか)
- ② 休憩環境(ベンチ・日陰・雨をしのげるなど、少し過ごせるか)
- ③ 案内機能(地図や周遊提案、デジタル含め“次どこ行く？”が決められるか)
- ④ 消費機会(飲食・物販など“買う・食べる”が起きるか)
- ⑤ 受入機能(トイレ等、滞在の最低条件があるか)」



確かに。ベンチもトイレもないのに“滞留してね”って言われても無理やもんな。

なるほど...！基準があると一気に具体的になりますね。  
で、候補はどう考えればいいですか？“滞留拠点はここです”って決めちゃうんですか？



候補地は最初から固定しない。ここも誤解されやすいから先に言うね。  
考え方としては、まず“既に強い資源がある場所”を核に置く。  
例えば、  
観光案内所(駅前): 情報と回遊の起点になれる  
道の駅(ねごろ歴史の丘/根来さくらの里): 受け止めと消費の拠点になれる  
主要観光地周辺の結節点: 人の流れが生まれやすい場所  
みたいに、“つながり”が作れる場所を候補として考える。  
そのうえで、運用体制や整備の優先度、関係者調整を踏まえて実行段階で確定していく。

## 岩出市観光の方向性



なるほど……！

“定義と基準はハッキリ、場所は実行で確定ですね。  
……で、その基準を満たすために、具体的には何から手を付けるのが効きますか？

まずは“新しく作る”より、既存資源の磨き上げだね。  
展示の見せ方、案内サイン、回り方の提案、清掃や維持管理。  
これだけで“過ごしやすさ”は確実に上がる。



確かに。“きれいで分かりやすい”だけで、長居できるもんな。

次に、休憩環境。ベンチや日陰、雨をしのげる場所。  
基準②(休憩環境)を埋めるのは、意外とここが効く。  
それから基準③(案内機能)は、紙の地図とデジタルを組み合わせ、  
“次どこ行く？”がすぐ決まる状態を作る。



“導線”が見えると回遊が回ります。

発信も同じで、SNSの写真・動画で“行ってみたい”を作って、来る前から滞留拠点を強くしておくのが重要ですね。

## 岩出市観光の方向性



そして基準④(消費機会)。特産品や土産、飲食メニューの磨き上げは直結する。道の駅や市内店舗と連携して、“ここで買う理由”“ここで食べる理由”をつくる。加えて、二次交通や将来的な宿泊の受け皿も含めて、回遊し続けられる条件を関係者と連携して整えていく。  
——これが『滞留拠点化』を実装する中身だね。

資源を活かす計画かあ。岩出駅前とかお店が集まっているところで、何かうまいことできたらいいな。ふんふん。



だからこそ、未来を見据えた観光施策が肝ですよ！例えば今後の10年間で、岩出市内に「滞留拠点」を作ることを目標にしていく。そしてその手段として、「岩出駅前活性化事業」や「道の駅の利活用」を組み込むことが重要になります。

「滞留拠点」をつくることで、一気に魅力が広がる気がしますね。そのプロセスで地域がつつながら観光をしっかりデザインしていきたいですね。



今後10年間において、岩出市内に「滞留拠点」を作ることを目標に、「岩出駅前活性化事業」「道の駅の利活用」を手段として観光施策を推進する。

## 岩出市観光の方向性



滞留拠点ができた場合、どんなメリットがあると思いますか。

人が集まると、その人たちを目当てにお店が生まれて、お店が増えると、また人が集まってくる、それを見てさらにお店が増えて...ああ...、好・循・環...



...なるほど。そうやって人が集まることで、外から入ったお金が市内で回り、既存の事業が元気になったり、新しい仕事が生まれたりするんですね。

ええ。観光で市外からお金を呼び込めれば、宿泊や飲食、サービス業の売上が増え、それが雇用や賃金として地域に還ってきます。



そうやって働く場が増えれば、若い人が無理に都会へ出なくてもいい。にぎやかな岩出市を想像するだけでワクワクしてきたよ！

今後10年間に於いて観光振興により地域経済の活性化させ、雇用抄出や賃金の向上につなげることで、若年層の定着と人口の減少の抑制を目指す。